

可能性にチャレンジしたエピソード



人を笑顔にできるこの仕事。まずは私が毎日笑顔で仕事します！



昨日より今日、そして明日へご利用者の皆さんで笑いながら体を動かして、動き辛いところも動かしながら体操したり、すぐ忘れちゃうねと言いながら今日あったことを話あったりして一緒に時間を過ごしている。



自分はオムツあてが下手。些細な事ですがオムツがよれて漏れてしまつては何の役にも立たない。オムツあての名人と呼ばれるようにチャレンジ。



個別外出に出かけたが、1年目でそんなに話してもらえず、少し不安を覚えながら、計画し一緒にでかけました。ご利用者はもくもくと食べており楽しかったのか？とも思ったが、その日以降「また行こうよ」と話しかけられるようになった。



ご自身でお食事を食べるができなかったご利用者がリハビリを意欲的に頑張り少しでも手が動くようになり、おいしいものをおいしく食べられるようにしたいです。



特養入所者も自宅での生活復帰を目指すべきであり、その一環としてリハパンではなく布パンツの使用を推進することはその可能性を高めるチャレンジであるように思います。



私があるご利用者について、ご家族に「こういう方ですよ」と話した時、ご家族から、「昔は違ったんです」「決めつけしないで下さい」と悲しそうに話していました。私はそこからご利用者の見方を変えることができました。一人一人に今まで生きてきた人生があり、その人生を知りながら介助する。



ご利用者が大切にされていると感じ、ご利用者に喜ばれるサービスを追求し続け、利用者満足度が日本で一番と言われるようなサービスを提供していきたい。



認知症のご利用者の方はいつも徘徊をしていました。その方は、ほぼ会話でのコミュニケーションはできませんでしたが、ご主人の面会時には普段見せることない笑顔を見せてくれました。その笑顔で日々の生活を送ってもらいたい、そのために職員もがんばろうと思いました。



認知症のご利用者の日々の行動やお話から、会話がかみ合わなくても理解しあえる時があります。



悩んでいた時に、優しく声をかけてくれた同僚や先輩職員に感謝。そういう人になろうと思いました。



基本を大切に、安全で安心してもらえる介護。



諦めずに声掛けを繰り返すことで、ちょっとした単語を発してくれた。



ショートステイ利用者のほとんどの方から、なかめぐろホームの食事は全て美味しいとおっしゃっていて、来るのが楽しみだと言ってもらえた。食事が美味しいという事は皆が笑顔になる条件でもあります。この美味しい食事がずっと続きますようお願いいたします。



支援職として、ご利用者一人一人の可能性を見つけ出していきたいです。



慢性的な人手不足の介護業界だけど、前向きに頑張っています。



OL生活から定年退職をきっかけに180度転換し介護の世界に飛び込みました。チャレンジです。様々な経験をされてきた利用者さんから多くの勉強をさせてもらっています。そして、今は経験を積んでステップアップしていきたいと思っています。



ご利用者だけでなく、職員も施設に関わる全ての人たちが笑顔で過ごせる施設にになったら素晴らしいと思う。だから、私は常に笑顔で楽しく働いていく！



自立支援が目標である特養において出来る事を時間がかかっても、自身でもらう。ご利用者の可能性を奪わない介護を目指す。



高齢者の介護をするなかで、何かプラスアルファで出来ることはないか考え、スキンケアやメーキャップ等を通して肌に触れることで健康を促す「心と体の美容療法」のビューティタッチセラピーの認定資格を取得しました。